

いたばし 環境管理ニュース

発行:板橋環境管理研究会
 〒173-0005 板橋区仲宿54番10号
 2014年12月1日 電話:03-3962-0131 FAX:03-3962-0133
 第363号 (板橋区公式ホームページからも閲覧可能)
http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/004/004325.html

今号のトピックス

- 1 省エネ法における建材トップランナー制度の対象となる建築材料の追加
- 2 平成26年度 白子川・石神井川生物調査の概要
- 3 いたばし・まちの環境発表会 発表者・展示者募集

省エネ法における建材トップランナー制度の対象となる建築材料の追加

平成26年11月25日、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行令の一部を改正する政令」が閣議決定されました。

本改正は、省エネ法第81条の3に規定されるエネルギーの使用の合理化を図ることが特に必要な熱損失防止建築材料として、新たに窓(サッシ及び複層ガラス)を追加するものです。

1. 政令改正の内容

建材トップランナー制度の対象となる熱損失防止建築材料の追加
 (政令第23条の2・第23条の3)

○省エネ法第81条の3に規定されるエネルギーの使用の合理化を図ることが特に必要な熱損失防止建築材料(建材トップランナー対象建築材料)として新たに窓(サッシ及び複層ガラス)を追加することとします。

○その際、勧告及び命令等の対象になる建材トップランナー対象建築材料の製造事業者等の要件として、生産量又は輸入量がサッシについては 94,000 窓以上、複層ガラスについては 110,000 m²以上とすることとします。

※建材トップランナー制度とは、製造事業者等に対し、現存する最も効率の良い建材を基に設定した目標年度(3~10年程度先)における性能(トップランナー性能)を満たすことを求める制度。

2. 公布日・施行日

公布:平成26年11月28日

施行:平成26年11月30日

(参考)建材トップランナー対象建築材料(政令の改正案より)

①断熱材	押出法ポリスチレンフォーム、ガラス繊維(グラスウールを含む。)又はスラグウールもしくはロックウールを用いたものに限り、真空断熱材その他経済産業省令で定めるものを除く。
②サッシ	鉄製又は木製のものその他経済産業省令で定めるものを除く。
③複層ガラス	ステンドグラスを用いたものその他経済産業省令で定めるものを除く。

(経済産業省ホームページより)

<http://www.meti.go.jp/press/2014/11/20141125001/20141125001.html>

平成26年度 白子川・石神井川生物調査の概要

板橋区で実施した白子川・石神井川生物調査の結果について報告します。

1. 調査概要

(1) 調査地点及び調査実施日

河川名	調査地点名	調査実施日	
白子川	①東埼橋上流付近	2014/7/22 (火)	9:00~11:00
	②白藤橋付近	2014/7/22 (火)	12:30~14:30
石神井川	①久保田橋付近	2014/7/23 (水)	9:00~11:30
	②緑橋付近	2014/7/23 (水)	12:30~14:30

(2) 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集しました。さらに、久保田橋、緑橋地点では、その他に定置網も設置し、魚類を採集しました。採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影後、現地に再放流し、現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定しました。底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象としました。

2. 調査結果

(1) 魚類調査結果

No.	目	科	種名	学名	白子川 ①東埼橋上流	白子川 ②白藤橋	石神井川 ①久保田橋	石神井川 ②緑橋	合計	環境省 2013	東京 2010区
1	ウナギ目	ウナギ科	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>		1			1	EN	VU
2	コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>		20<			20		
3			アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>		2	3	100<	105		VU
4			マルタ	<i>Tribolodon brandti</i>		2			2		留
5			ウグイ属	<i>Tribolodon sp.</i>			1		1		
6			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>				2	2		
7			ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	1		3	6	10	DD	
8		ドジョウ科	シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>				1	1		VU
9	ナマズ目	ギギ科	ギバチ	<i>Pseudobagrus tokiensis</i>			1	1	2	VU	CR
10	サケ目	アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>		100<			100		
11	スズキ目	ハゼ科	スミウキゴリ	<i>Gymnogobius petschiliensis</i>	4	9			13		
12			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>		1			1		
13			トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp. OR</i>	5	2			7		
14			ヨシノボリ属	<i>Rhinogobius sp.</i>			2		2		
15			ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>		100<			100		留
	5目	6科	13種	種類数計	3	9	5	5	13	3	6
				個体数計	10	237	10	110	367		

・「環境省RL(2013)」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2013年
 EN : 絶滅危惧ⅠB類 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 VU : 絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 DD : 情報不足 評価するだけの情報が不足している種

・「東京都RL(2010)区」:東京都版レッドリスト(東京都の保護上重要な野生生物種)2010年 区部
 CR : 絶滅危惧ⅠA類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 VU : 絶滅危惧Ⅱ類 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
 留 : 留意種 現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの

・個体数計において「100<」、「20<」はそれぞれ100、20として加算。

・ウナギの種名は魚類検索第2版に従った。「環境省RL(2013)」では、ウナギをニホンウナギとして記載
 ・シマドジョウの種名は魚類検索第2版に従った。(近年はヒガシシマドジョウの表記もあり)
 ・トウヨシノボリの種名は魚類検索第2版および鈴木ほか(2010)に従った。(近年はクロダハゼの表記もあり)

(2) 調査結果のまとめ

【白子川】

東埼橋上流付近では、過去5年間において、ドジョウ、スミウキゴリ、トウヨシノボリなど3～6種が確認されています。今年の調査でも、ドジョウ、スミウキゴリ、トウヨシノボリの3種が確認され、例年と同様な種が確認されました。調査水域は魚類にとっては水深が浅く単調であるため、瀬や淵、寄り洲など多様な生息環境が少ない地点です。

白藤橋付近では、過去5年間において、コイ、マルタ、アユ、ボラ、ヌマチチブなど8～12種が確認されています。今年の調査でも、ウナギ、アユ、コイなど9種が確認され、例年とほぼ同様な種が確認されました。調査水域は、砂泥などの礫などの堆積があり、小規模ながら瀬、淵などの環境があります。また、廃棄された鉄パイプの中などにウナギやマハゼなどが確認されています。この付近は、感潮域であるため汽水域の魚も多く採取され、4調査地点の中では、最も確認種類が多い地点です。なお、今年の調査では、例年確認されているボラは確認されませんでした。

【石神井川】

久保田橋付近では、過去5年間において、魚類が確認されなかった年もありましたが、例年、アブラハヤ、ドジョウなど2～5種が確認されています。今年の調査では、アブラハヤ、ドジョウ、ギバチ(稚魚)など5種が確認されました。調査水域は、河道が直線で、魚が潜める淵などがあまりないため、植生ブロックが設置されています。このため、底生魚のドジョウは例年確認されるようになってきていますが、大水が出ると魚が流されやすい河道のため、遊泳魚が定着する環境となっていないものと考えられます。

緑橋付近では、過去5年間において、アブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、ギバチなど1～5種が確認されています。調査水域は、規模は小さいものの寄り洲があり、流れの中に水草が繁茂する場所もあります。今年は、遊泳魚のアブラハヤやモツゴ、枯れ葉やゴミなどが堆積した場所ではドジョウやギバチ(稚魚)など5種が確認され、例年とほぼ同様な種が確認されました。特に、アブラハヤは定置網で群れで採取されたほか、目視で群泳が確認されました。また、他地点及び昨年の調査では出現していないシマドジョウが1個体確認されました。

(3) 現状と課題

白子川や石神井川は大水の時に、急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類や底生動物の逃げ場がなくなり、下流に押し流されてしまいます。そのため、久保田橋付近に設置されている植生ブロックや各地点にも大小さまざまに存在する寄り洲、またはブロックのすき間など、生物が逃げ場・隠れ場として利用できる環境が、より増加することが望まれます。

調査状況写真及び水生生物写真



投網



タモ網



スミウキゴリ

3. 問合せ

板橋区環境課環境調査係 電話:3579-2593

いたばし・まちの環境発表会 発表者・展示者募集

板橋の環境を守る活動や研究、調査や保全といったフィールドワークを行っている区民の皆さま、板橋の環境への熱い想いを、多くの方々に発表してみませんか？

口頭発表、映像発表、パネル展示、様々な形態での実施が可能です。発表形態はお気軽にご相談ください。ご応募お待ちしております。

1. 開催日：平成27年3月1日(日)11:00～16:30
2. 場所：エコポリスセンター地下1階視聴覚ホール
3. 対象者：区内にて環境に関する取組を行なっている個人、または団体
(町会・自治会・学校・子どもの活動グループ・企業などを含む)
4. 予定発表者数：口頭発表(5分、10分、15分の中でご指定頂けます。)10組程度
※ポスターやパネル展示のみも受け付けます。
※定員を超えた場合は部門のバランスを考慮の上抽選と致します。
※発表人数の関係により開催時間に若干の変更がある場合がございます。
5. 申込：平成26年12月22日(月)必着
 - ①いたばし・まちの環境発表会発表申込
 - ②郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・FAX 番号(団体または代表者のもの)
 - ③年齢または学年
 - ④発表のテーマ(25字以内)
 - ⑤発表形態(口頭・パネル展示・映像、その他ご希望があればその旨も明記)
 - ⑥希望発表時間(5分、10分、15分いずれか)
 - ⑦団体名(団体の場合のみ)

を明記の上、エコポリスセンター(〒174-0063 前野町 4-6-1)、Eメール：info@itbs-ecopo.jp までハガキまたはEメールにて送付。

6. 問合せ

板橋区立エコポリスセンター

〒174-0063 板橋区前野町 4-6-1

電話：03-5970-5001 Eメール：info@itbs-ecopo.jp



昨年度発表会の様子